

名鉄の不思議 パノラマカー

(その一)

1961(S36)年、人類初のソ連製人工衛星が打上げられたり、プロ野球では、読売ジャイアンツと南海フォークスが優勝していたころ、名鉄はまたまた『3400系』(芋虫=あな名で紹介済)をしのぐ、歴史に残るような名車『パノラマカー』を造った。

『パノラマカー』は、鉄チャン仲間では話題が多いので3回にわけてまとめてみます。

特徴 :全体のフォルム、戦後の復興に向けて電車は四角い無骨の車体で錆色塗装が多かった時代に、工業デザインに依頼して出来上がった車体は、50年後の現在でも遜色のないスマートのものである。



特徴 :塗装色 デザインとともに採用された車体の塗装色「スカーレット」はセンセ ショナルに受け止められ、その後、名鉄カラーとして定着し、採用されている。

特徴 :最前列展望席 通常は運転席が設けられているもっとも可視範囲の広い(展望の良い)ところに客席を設定したこと。しかも、平日通勤時間帯にも運行され、特急券も座席指定券も必要としなサービスは大好評を得た。



特徴 :ショックアブソーバ 乗客を列車の最前列展望席に乗車させたので、そ



の安全確保が最優先の課題になりました。そこで取り入れられたのが、他の電車では採用されたことのない大型の「ショックアブソーバー」(緩衝器)です。

正面下側のヘッドライトの外側にある、D形したものです。大型のダンプカーと衝突してもビックともしないほど強力なものようです。